

令和元年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、
「〇〇したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、
他者のことを慮る心や態度を培う。

2. 本年度の重点取組み事項 スローガン 『ともに』

- ① 職員間の保育共有・連携： より具体的に子どもの姿・保育について語り合い、保育を深める
- ② アーティスト等、第三者の活用拡充： 物的環境に留まらず、保育全般に第三者の視点を活かす
- ③ 働き方改革の更なる推進： 様々な立場(職種・担当)の人が気持ちよく働けるように

3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価
① 職員間の 保育共有・ 連携	・公開保育を機に、担当責任者を中心に 日頃の保育を見直し	A ・事前事後研修を含めて、全体または担当間で、子ども姿や保育について何度も話し合った。 ・チームでの共有の重要性に気づき、准職も含めた共有に努めた。
② 第三者の 活用拡充	・複数のアーティストが保育に参加 (6月、11月に各2週間程度) ・幼児教育実践学会(8月)にて、アーティスト参加の取り組みをポスター発表 ・第三者評価(全日私幼機構)を実施	A ・新たなアーティストの参加や滞在制作等、前年度から発展させた取組みが実施できた。 ・ポスター発表を取りまとめる過程で、園内の受け止めや意義を整理できた。
③ 働き方改 革の推進	・准職制度(呼称、賃金待遇の変更)の導入	B ・掛け声先行で内実が伴わない(変わらない)部分もあった。

4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由と次年度への課題
A	・公開保育というインパクトのある取組みをエンジンとして、全園的に保育について考え直し、同時に自園の良さや各職員の努力についても認め合うことができた。 ・保育を考える中で度々あがった「子どもの主体性の尊重」というキーワードを軸に、環境構成・保育形態の見直し等、様々な試みを実施した。次年度以降も継続課題としていきたい。 ・ICTの活用等により、保育(本業)により注力しやすい環境を整えたい